

第73回大分県畜産共進会 審査報告

平成24年11月

公益社団法人 大分県畜産協会

第73回大分県畜産共進会（肉牛の部 審査講評）

第73回大分県畜産共進会、肉牛の部が皆様のご協力により無事終了し、ここに審査結果のご報告ができますことを、審査委員を代表して心からお礼を申し上げます。

今回の出品頭数は、黒毛和種去勢牛40頭、交雑種去勢牛10頭の計50頭でありましたが、枝肉重量不足のため黒毛和種去勢牛1頭、交雑種去勢牛2頭が審査対象外となり、計47頭で審査を行いました。

枝肉の審査につきましては、（社）日本食肉格付協会の牛枝肉取引規格を基準として行いました。

まず、黒毛和種去勢牛ですが、出品牛の月齢は26か月～29か月で、平均28.3か月でありました。

種雄牛別では寿恵福が最も多く、16頭（40%）で、続いて勝福平 8頭、隆茂38 8頭、その他が7頭でありました。

枝肉重量では最大621.2kg、最小438.3kgで平均515.1kgと昨年と比較し枝肉重量は13.3kg増加いたしました。

次に枝肉の格付け状況ですが、歩留等級につきましては、A等級35頭、B等級4頭で、A等級割合は昨年の59.5%より上がり89.7%でした。

肉質等級では、5等級9頭（23.1%）、4等級19頭（48.7%）、3等級以下11頭（28.2%）で4・5率は昨年の81.1%よりもやや下がり71.8%でした。

また、肉質につきましては、脂肪交雑（BMS No）は最高が11で、平均6.3、ロース芯面積は最大83cm²、最小44cm²、平均63cm²で、皮下脂肪の厚さは、最大4.8cm、最小1.6cm、平均2.9cmでありました。

今回は、前回に比べると4・5率は11.9ポイント下がりましたが、ロース芯面積が平均で8.1cm²大きくなり、A等級の割合が30.3ポイントも向上する等、全体的に枝振りの良いものが多く見られました。

一般出荷では、皮下脂肪の厚さやバラの薄さ等が課題となっていますが、今回の枝肉は非常にバランスのとれた枝肉が多く、今後とも飼養管理技術の一層の向上と改善に努めていただきたいと思います。

次に、2区の交雑種去勢牛8頭の結果ですが、出品月齢は24～29か月齢で平均26.8か月でした。

枝肉重量は平均539.5kgで前回に比べ20.7kg大きくなっていました。

格付けについては、歩留等級はA等級2頭、B等級4頭、C等級2頭となっております。肉質等級では、4等級3頭、3等級以下5頭でした。

前回に比べ、4等級以上の割合は7.5ポイント上がり、枝肉重量も向上するなどの改善が見られますので、今後とも引き続き一層の飼養管理技術の向上に努めていただきたいと思います。

第73回大分県畜産共進会（乳用牛の部 審査講評）

大分県内の地区予選を勝ち抜いた代表牛が一堂に集まって開催される「第73回大分県畜産共進会」の審査が出品者をはじめとする多くの関係者の方々、さらに参観者の皆様のご協力により、無事に終了できましたことを心から感謝申し上げます。

今回の出品頭数は、第6部で2頭、第7部で1頭、計3頭の欠場があり、審査頭数は67頭となりました。それでは、第1部から第7部の各クラスの審査概要をご報告致します。

1. 未経産牛クラスについて

未経産牛は4クラスで47頭が出品されました。各クラスとも発育に優れ、肋がよく開帳しており、全体を通じて若牛として望ましい乳用性を備えているものが多く出品されておりました。反面、月齢を考慮すると明らかに発育の未熟と思われるものや、前駆の強さや充実度に欠ける牛が見受けられたのは惜しまれる点でありました。さらに、後肢は飛節が鮮明で幅と角度も概ね望ましいと思われましたが、中には踏みが若干弱いものが散見されました。

ジュニアチャンピオンとなった第1部の101号は一番若いジュニアクラスながらもこの区分としては群を抜いた乳用性、各部位における鮮明さや肋腹、肢蹄の構造に優れており、総合的に体全体の骨格構造が極めて正確で歩様素晴らしく、乳用雌牛としての優美さを見せておりました。

2. 経産牛クラスについて

経産牛クラスは3クラスで20頭が出品され、比較的年齢の若い2歳～3歳クラスではサイズは決して大きくありませんでしたが、体全体の鮮明さや乳用性の優れた牛が数多く見受けられました。各出品牛共に後乳房の幅は素晴らしく、乳房の付着点の高さは若牛らしさを見せておりましたが、乳頭の配置や太さ、前乳房の付着の強さといった面でまだまだ改良の余地があると思われま

す。4歳以上の7部においては、共に体各部の構造が充実した牛が数多く、実に見応えのあるクラスでした。前駆の強さと、乳用性を備え、いかにも泌乳能力の高さを感じさせる乳房の質の良さと、後乳房の幅に富んだ牛が揃っておりました。その中で、素晴らしい体の骨格を持ちながらも、乳房靱帯の衰えからくる乳房底面の低さが目立ってしまい、上位に出来なかった牛が見られたのは非常に残念でした。最終的に702号をグランドチャンピオンに選ばせていただきましたが、理由として非常にスケール雄大で体長があり、体各部の移行も

なめらかで前乳房の付着が強く、後乳房の幅に富み、底面高く、総合的乳房の形状において極めて優れていると思われました。

3. その他

昨年の東日本大震災から約一年半、まだまだ東北の酪農は厳しい状況が続いています。九州におきましても一昨年の口蹄疫では非常に大変な思いを致しております。さらに飼料の高騰と共に経営を中止する経営体も増え今後も酪農産業は厳しい時代が続くと考えております。

しかしながら、このような厳しい時代であっても、共進会を開催することで後継者の育成や酪農家同志の交流を通じ、厳しい時代に負けない酪農経営を期待しております。

平成24年 11月

審 査 委 員 長
吉 武 理 印